

TOPICS 時々刻々

第1回長野拡大内視鏡研究会

第1回長野拡大内視鏡研究会が12月4日、信州松代ロイヤルホテルで開催された。当研究会は当院胃腸科小山部長が代表世話人となり、拡大内視鏡を用いた診断治療に関心を持つ消化器専門医の意見交換を図るとともに、病院間の連携を深め、患者主体とする臨床医学の進歩と発展に寄与することを目的として設立された。

第1回にも関わらず、新潟、岡山など県外からの演



演していただいた。

引き続き第2部の症例検討が行われた。症例検討には国立がん研究センターから下田忠和先生、信州大学医学部から太田浩良先生をお招きし、病理解説をお願いした。症例検討は当初5演題の予定であったが、4演題で終了時間となってしまう程、1例1例熱心な議論、討論が行われた。演題持ち越しというハプニングはあったものの、1例1例濃密な議論が行われ、大変有意義な会であったと多数の参加者から良いご評価をいただき、大成功のうちに会は終了した。

本研究会運営に当たりご協力いただきました関係者

各位に御礼申し上げます。

(胃腸科 石井英治)

小海分院で健康講演会を開催

小海分院では年2回、地域の方々とともに、身近な興味を持てるテーマで健康講演会を開催している。本年2度目の企画では「認知症のケア」について当院精神神経科の狩野正之部長をお迎えしお話を伺った。1階ホールを埋め尽くす90名もの参加者にお集まりいただいた。

表が会場に配られ、ステージ毎の特徴を追っていった。成年中期(初老期)の身体的特徴としての動脈硬化はさまざまな疾患の原因となり、それらは成年後期(老年期)の「老化」という身体機能低下を受け、認知症へつながっていくこと、認知症にはいろいろなタイプがあること、そしてその治

「人生の四季と心の健康」と題し、ライフステージに応じた心と身体の変化、社会生活と心の変化を表した



療法などが丁寧に話された。認知症は年をとっていきなり起きるものではなく、若年時の身体状況とつながっていることが理解できた。ホワイトボードを使用し、その講演に、熱心に聞き入

る参加者の様子が窺えた。講演終了後は、会場から自分や友人の身に起きた心配ごとやケアに関する質問も出された。認知症は年をとれば誰にでも起こる恐れがあるだけに、その正体や治

今月の作品「イルミネーション」

12月23日
佐久市



小さな、小さな光の集まりが作り出す芸術の光、静かに流れて行く音楽、私はおとぎの国へ迷いこんでいました。

Canon F22 1秒 秘書広報課 北村裕子

療、ケアについて聴く機会が持てたことは有意義であっただろう。今後も地域の皆さま方の要望を反映できる講演会が続けられ、小海分院がともに健康になれる場であればと思う。

(小海分院 市川徳子)

医療安全学習会

開催される

平成22年度第2回医療安全学習会がSTEP委員会、医療安全全国共同行動WG、医療安全管理室の共催で12月2日に開催された。今回は、「当院の医療安全の現状」をテーマに各種安全管理責任者が講師となり講義形式で行なった。

「医療に安全はない」とをおさらいし、STEPレポート集計分析結果から当院の特徴と課題を挙げた。指

麻薬取り扱いのスライド



脇をしめる
前腕をカート・専用トレイに固定
体はカートに密着

の基礎知識を確認しつつ手順遵守とより慎重な取扱いを求めた。新たな試みとして医療機器安全を題材に加え、管理責任者の所在と任務、保険償還・在庫管理に医療安全の観点も備えた院内管理体制等を紹介した。最後に医療安全全国共同行動WGの活動期間延長の報告をし、これ

に示し、指示受け、患者さんに実施する。工程のインシデントを例に、電子カルテ導入前後の人・もの・情報・動きと照合手順等の比較を行い、安全優先のルール作りとその遵守の重要性を啓発した。また、ダブルバック製剤隔壁忘れと麻薬取扱い時の落下破損事故に焦点をあて、成分の特性と外包装の役割（メイラード反応防止）、取扱い方法等

に参加する意義（患者さんの安全確保に地道に、真剣に取組むプロセスが安全文化醸成につながること）を確認した上で、改めてWGの取組みへのご協力をお願いし終了とした。

寒い中、学習会運営にご協力いただいた皆様には感謝申し上げます。来年度は診療部の出席率向上に努めたい。

(医療安全管理室 川村佳子)